

Nara Prefectural University Campus Journal

2017.3 vol.4

■ 巻頭エッセイ

官学連携による地域の新たな価値の発見

天理市長 並河 健

■ 特集

コモンズゼミの活動

第51回秋華祭「恋する秋華祭」

3公立大学連携シンポジウム

県大への留学生





附属図書館2階閲覧室より



「奈良県立大学」のロゴマークは、シルクロード経由で伝わったとされる「唐草模様」のイメージで「NARA」の文字をデザインし、奈良の枕詞「青丹よし」の色である青色（緑色）と朱色、冠位十二階の最上位の色である紫色で「最高学府」に相応しい県立大学のロゴを表現しました。

制作者：東京藝術大学名誉教授・奈良県立大学客員教授
絹谷幸二

Contents

文明と幸福
附属図書館長 野高宏之 …………… 1-2
巻頭エッセイ
—官学連携による地域の新たな価値の発見—
天理市長 並河 健 …………… 3-4
観光創造 commons …………… 5
都市文化 commons …………… 6
コミュニティデザイン commons …………… 7
地域経済 commons …………… 8
第51回秋華祭「恋する秋華祭」 …………… 9-10
3公立大学連携シンポジウム …………… 11
県大への留学生 …………… 12
クラブ紹介 …………… 13
TOPICS …………… 14

<表紙写真について>
デービッド・アトキンソン客員教授による
県民講座のようす



附属図書館長 野高 宏之

文明と幸福

大学生協に『サピエンス全史』という本があったので読んでみた。七万年にわたる人類の歴史をあつかった内容だ。時間の尺度がこれほど長くなると、農業革命も科学革命も情報革命も、およそ人類の文明のあらゆる段階が同じ焦点距離に収まってしまふ。あらゆる時代の文明が同じ比重で現代とつながる不思議なパノラマ世界を実感できるのがこの本の最大の魅力だ。

一人では生きてゆけない人間は家族を中心とした集団をつくり、何百万年ものあいだ地球環境に適応して暮らしていた。もつとも成功した場合でも数百人が集団の限界だった。まさしく人類は地球上の他の生物と同じ仲間だった。

人類が生活の豊かさを願うようになったのは七万年前からだ。このとき人類は脳の中に想像上の秩序（虚構）をつくり、他者と共有することをはじめた。想像上の秩序は見知らぬ人同士が共

同体をこえて信頼関係をむすぶことを可能にした。社会と個人の間に文化や経済や政治や宗教といった中間領域をもうけた。この結果、数百人が限界であった集団は巨大化し、数万年後には国家を形成する文明が誕生した。

七万年前に想像上の秩序という虚構を手に入れることで、人類はより豊かな社会をつくりあげることになった。しかしそれはたして人類は幸福を手に入れることができたのだろうか。『サピエンス全史』は、文明が新しい段階に進むごとに社会が総体として豊かさを實現したことを示す。その返す刀で、それぞれの段階で人びとはより幸福になったのかをくり返し読者に問いかけている。

この問いかけが現れるたびに、ホイジンガが『中世の秋』に記した次の一節を想起した。
人間にわりあてられる生の幸福、のびやかな喜び、甘い憩いの総量は時代によってそう差があるわけではない（堀越孝一訳）。

人間に与えられた幸福の総量は、いつの時代も同じである。この信念にたつてホイジンガは十四・五世紀のネーデルラント地方に生きた人びとに共感し、それを形容する文章を綴ったのである。

科学的であることを志向する学問は、心のゆれを示す形容句を計測不能な諸要素として排除してきた。その結果、生活の豊かさを生み出してきた文明は人びとの幸せと苦しみにどのよう作用したのかについて、多くの歴史書は何一つ言及していない。本書はこのように結論する。幸福の歴史についての研究は最近始まったばかりらしい。

官学連携による地域の新たな価値の発見

天理市長 並河 健

奈良県立大学と天理市は、地域の観光振興や魅力づくりについて相互に協力し、将来的な地域の発展に寄与するため、一昨年の5月に包括的な連携に関する協定を締結しました。初年度の取組みとして、相互の知見や研究成果を提供し合う出前講座を実施し、層越ながら私もキャンパスにて学生の皆さまに本市の取組みについてお話をさせていただきました。

協定締結に先立ち、国の地方創生の人材派遣制度を活用し、本市の地方創生アドバイザーとして地域創造学部の高津融男准教授様に就任いただき、おり、「天理市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の策定及びそれにつながる地域づくり等、本市施策の最前線で専属的にご支援をいただいています。また、伊藤学長様には、天理市まち・ひと・しごと創生会議の委員長として戦略の策定及び実行に主導的な役割を果たしていただいています。

今、全国的に地方創生が推進されていますが、本市は、歴史・文化遺産や豊かな自然、スポーツ、音楽など、全国に発信できる魅力が数多くあり、学生を中心とした若者人口や来訪者が多いという強みがあります。また、県下

で唯一の定住自立圏の中心市として「大和まほろば定住自立圏」を形成するなど、奈良県内における固有の立ち位置があり、市内においても各地域ごとに特色があります。それらの強みを適切に分析し、それぞれに合った「処方箋」として複眼的視点で政策を展開することが必要です。

本市では「サト」の豊かさや「マチ」の魅力を活かすことで、住み続けたい街として市民が誇りに思えるブランド力を創出していくことが大切だと考えています。

例えば、子育て支援の拠点施設として「子育て世代

なくしっかりと繋いでいくことで、より大きな「まちづくり」の波を起こすことができます。

奈良県立大学では、地域創造学部を中心に地域に密着したフィールドワークによる実地研究や学生と教員の対話型少人数教育を積極的に実施するなど、地域や観光に関する教育・研究を専門的に展開されています。一方、本市の有する自然や歴史・文化等の優れた地域資源は、学生が地域や観光を学ぶための良き学習材料となります。共同研究など連携して事業を実施するこ

とでより実践的な教育・人材育成環境を提供することができると考えており、相互に大きなメリットを見出すことが出来るものと確信しております。

今後、様々な事業で連携をするなかで、学生の方々におかれましては、貴学の特色ある先進的な学習環境を十分に活用し、積極的に地域に関わっていただきたいと考えます。そして、そのフィールドである『天理市』に今まで以上に関心を持っていただき、天理で働く人や住む人など天理に関わりを持つ人が増えることを期待します。

すこやか支援センター」を市役所に併設し、子育て世代が安心して子どもを産み育てることができるよう、妊娠前から、出産、子育てに至るまで切れ目のない一貫した支援を提供する体制を構築します。

また、昨年4月に医療と介護予防、健康づくりの拠点として新たにオープンした市立メディカルセンターを中心に、市内各地域で実施されているサロンを繋ぎ、介護が必要な状態になっても自宅で生活ができる地域のあり方やサービスを提供する地域包括ケアシステムの構築を目指しています。

平成26年度から、市内4地区において「街づくり協議会」を順次立ち上げ、地域の自治会や農・商工関係者、専門家を交えて、それぞれの地区にあったまちづくりや地域の活性化について検討を進めています。

天理駅周辺地区では、市の玄関口としての駅周辺の活性化をコンセプトに、駅前広場を文化発信やにぎわいの拠点と位置づけ、ステーションやアンテナショップなどを新たに整備し、平成29年4月にリニューアルオープンを迎える予定です。本事業は多世代交流の空間を子育て、

健康づくり、介護予防など、市施策のアウトリーチの場として活用する行政の新たな試みでもあります。

南部地区では、地域の情報発信とサイクリングやノルディックウォーキングによる周遊観光拠点として、食の魅力と産品販売を加えたトレイルセンターの機能強化を図るほか、高原地区では、地域の強みを活かした里山のライフスタイル提案による移住・定住促進にも着手しています。また、北部地区においても、地域で進めていただいていた活性化プロジェクトを中心に協議会を立ち上げました。

南部及び高原地区においては、高津様のご指導のもと、既に奈良県立大学生によるフィールドワークを通じた地域の研究活動や地元で活動されているNPO法人との連携活動を始めていたため、コミュニティづくりや観光振興を専門的に学ばれている。若い視線が本市に向けられていることを大変うれしく思います。

天理駅前広場やトレイルセンター、メディカルセンターといった新たな拠点と市民の様々な活動、学生による研究活動を個別の取り組みで終わらせること



Profile

なみ かわ けん
並河 健

【生年月日】昭和53年12月26日生

【出身地】大阪府箕面市

【略歴】平成9年3月奈良県私立

東大寺学園中学校、同高等学校卒業。平成15年3月東京大学法学部卒業。平成15年4月外務省入省。平成20年5月在エジプト日本国大使館二等書記官。平成22年7月日本APEC準備事務局課長補佐。平成22年10月国際協力局アフガニスタン支援室課長補佐。平成23年12月退職。平成24年1月広告代理店入社 同社 戦略プランナー（同年11月退職）。

平成25年10月28日天理市長初当選、第8代市長に就任。

【任期】平成25年10月28日～平成29年10月27日

【趣味・特技】居合道（三段）、アラビア語、旅行、映画鑑賞

【現在の主な役職】

- ・天理市社会福祉協議会会長
- ・天理市社会福祉事業団理事長
- ・奈良県広域消防組合運営協議会委員
- ・奈良県スポーツ推進審議会委員



観光創造

コモンズ

- ― 観光ビジネス・政策
- ― 景観マネジメント
- ― アジア・グローバル観光交流



大台ヶ原でシカの影響を考える



都市文化

コモンズ

- ― 都市社会史
- ― メディア・表象
- ― アート・アミューズメント



耐震工事の仮囲いを活用した展示風景

コモンズ活動事例報告

観光立国が謳われ、わが国のきわめて重要な成長分野として「観光」が位置づけられ、経済波及効果はもとより、活気ある地域社会を築く上で「観光」が担う役割は大きなものとなっています。地域ではぐくまれてきた自然、歴史、文化を土台として、観光の可能性を引き出すことが求められる中で、観光創造コモンズでは、「観光ビジネス・政策」「景観マネジメント」「アジア・グローバル観光交流」の3つの分野から観光を学修しています。観光ビジネス・政策分野では、過疎地の実態、公共交通機関の役割、ホスピタリティ産業などを学ぶとともに、地域活動や調査により地域の現状と課題を把握し、解決に向けて地域の方々と考える活動を進めています。景観マネジメント分野では、各地の文化財や自然など地域に固有の資源を対象として、その保全の仕組みや観光利用を学び、自然公園、文化財、都市公園などをフィールドとして活動しています。アジア・グローバル観光交流分野では、グローバルな視点から観光を分析し、国際観光を対象とした分析はもとより、国内の観光についても、旧居留地に視点をあてて日本と海外の交渉の歴史と観光資源の結びつきを分析するなど、海外の先進観光地の観光政策の調査や国内のフィールドでの活動を進めています。

景観マネジメント分野では

身近にある奈良公園。寺社とシカ、の印象が強いかもしれませんが、桜、紅葉と季節によって違った印象を訪れる人々にもたらしてくれます。また、シバが明るい若草山、隣接する緑濃い春日山のコントラストは、遠くからでも奈良を印象づける風景となっています。景観マネジメント分野の対象は、それぞれの土地に根ざして長年継承されてきた地域固有の資源としての「風景」です。この地域固有の資源を保全し、観光に活用していく方法をフィールドで学んでいます。自然資源、歴史文化遺産ともに豊富な奈良公園は貴重なフィールドです。また、田原本町にある縄文遺跡、唐古・鍵遺跡では、公園ボランティア養成講座でワークショップを行い、史跡公園として風景を作っていくとくみのお手伝いをしています。また、大台ヶ原、箕面公園では、目の前に広がる風景を作り出した自然の営み、人々の努力を理解し、風景を保全し利用する上での様々な取り組みを学んでいます。身のまわりにあっても気づきにくい自然や歴史文化遺産に目を向け、その価値を考えてみると、身近な風景が違ったものに見えてくるかもしれません。

コモンズ活動事例報告

西尾ゼミ(芸術学)と松岡ゼミ(社会学)の合同で、キャンパスの耐震工事にともない中庭の一部を封鎖していた仮囲いをギャラリーと見立て、「KARIKAKOI GALLERY」と題した展示をおこないました。そこに並んだのは、「ファッションと写真表現」というテーマのもとに、10名の学生(3年生)が制作した計14点の作品群。それによって、いまでも誰も立ち止まらず、見向きもしなかった場所を、アートとコミュニケーションの場へと状況変換することを試みました。

まず展示内容を企画するにあたっては、先行事例として、各自がファッションに関するさまざまな写真表現を持ち寄り、その面白さについて議論しました。そのうえで、学生がみずから表現するセルフポートレート作品にくわえて、若者に人気のSNSである「Instagram」に数多く投稿されている「置き画」から着想を得た作品を展示することになりました。「置き画」とは、投稿者がみずからの衣服と持ち物のみを床に置き、真上から撮影することによって、ファッションのコーディネートを紹介する方法のことです。その均質性や匿名性に違和感を覚えた学生たちは、これを問い直すために、同じ方法で奈良県立大学に関わる多様な人びとを表現することを思いつきました。あえて名前は伏せ、置き画と、その人にまつわるハッシュタグ(キーワード)だけで、「その人らしさ」を表現し、鑑賞者に想像させることができるのではないかと考えたのです。

そこで、モデルとしてリストアップした12名の教職員・学生から、普段身につけている衣服・持ち物を借り、背景や配置にもこだわって置き画を再現。それを撮影した写真をポスター用紙に印刷し、仮囲いに展示しました。そのプロセスのなかで、写真加工や展示技法など、アートの実践的な技術も学んでいきました。他方で、本活動では、ただ作品を作って展示するだけでなく、その意義や結果を客観的に考察することも、重要な学びとして位置づけました。小規模ゆえに、人と人と距離が近い奈良県立大学では、作品のモデルとなった人びとにそれぞれ共通のイメージがあると考え、置き画で表現したつもりでしたが、それが誰を表現しているかが鑑賞者に伝わらない場合もあったようです。このことから、「自分らしさ」は、他者によって作られており、他者との関係性によって変化するという社会学的な考え方を再認識することになりました。また、自分が周りからどう見られているのか、または、どう見られたいと思っているのかを、モデルとなった人びと自身に考えてもらう機会にもなったのではないのでしょうか。



学びのOneシーン

熱海市 有形文化財 起雲閣を見学

シンガポールFW: 現地学生との交流活動

京都産寧坂で 建造物の保全を学ぶ

箕面公園を歩く (その後、管理担当の方に話を聞く)



学びのOneシーン

撮影した写真を加工してポスターをデザイン

自ら作り手になることで発見することも多い

表現における社会性について議論

展示技法を学ぶ



コミュニティデザイン

コモンズ

- コミュニティ政策
- 持続可能なコミュニティ
- 共生・協働のまちづくり



レインボー・パレード（大阪）①



地域経済

コモンズ

- 地域経済
- 地域産業
- 流通・マーケティング



自動車整備工場の見学。技術者から丁寧な説明を受けた。

コモンズ活動事例報告

2016年度調査基礎演習（2年生）

①概要

「調査基礎演習」は、学生一人ひとりの問題意識を出発点として、テーマと対象の設定→テーマと対象の明確化→対象へのアプローチ→考えの整理→研究成果の言語化という研究の一連のプロセスを体験し、研究のやり方を体得することを目的とした演習である。

前学期の6月までに、学生39人の39のテーマが出揃ったところで、テーマを分類して9つのグループをつくった。各グループの学生たちは、グループテーマを以下のとおり設定した。「平和で安全な暮らしとは」「何かを犠牲にして何かを守る」「大人と子どもとのつながり」「人の関心を惹きつけるもの」「家族機能の外部化」「伝統的まちなみと人の意識」「豊かな生活を彩るもの」「人としての幸せ」「国民が求めるものの移り変わり」「定住者と移住者の結合と分離。自分のテーマをより大きなテーマのなかに位置づけることにより、個人テーマをより明確化することになった。

②研究例・多田悠季「性的マイノリティと共生」

具体的に一人の学生の研究を紹介したい。多田悠季さんの研究である。多田さんの問題意識は、4月の時点から明確であった。高校生の時、タイ人の友だちとの出会いから、タイ社会では性的マイノリティの人びとが肯定的に受け入れられていることを知った。それが日本と大きく違うと感じた多田さんは、性的マイノリティの人びとを抱える生きづらさや逆境を、体系的かつ具体的に明らかにし、共生の道を探りたいと思った。

前学期から夏休みにかけて、多田さんは、4人のトランスジェンダーの人に集中的なインタビュー調査を行なった他、幅広い世代の人が集まる自助組織「トランスジェンダー生徒交流会」、カミングアウトしたいと考えている人を応援する写真展「OUT IN JAPAN in NARA」、「人」の多様性を祝福する「レインボー・パレード（大阪）」において参与観察とインタビュー調査を行なった。

一連の調査は本格的なフィールドワークであり、性的マイノリティの人びとの切実な現実と迫るとともに、性的マイノリティである自分自身のあり方を見直す機会にもなった。調査成果は、「性的マイノリティと共生」というテーマの調査報告書として提出された。

③テーマのヴァリエーション

多田さんの他にも、多くの学生が自分の問題意識を研究可能なテーマとなるまで考え抜き、現地調査と文献調査によってテーマを追求し、自分なりの研究を展開していった。「快樂殺人」（松下）、「動物の権利」（藤崎）、「NPOとボランティアのシレンマ」（谷野）、「子どもの遊び場」（黒木）、「世代間交流」（安藤）、「子ども食堂」（西山）、「居心地のいい生活空間」（今井）、「カラオケを通じた高齢者の生きがい」（安倍）、「伊勢講からみる地域の衰退」（西川）、「日本における省庁移転の誘致（池）など、全部を紹介できないのは残念であるが調査報告会では、自分で考え、自分で追求したことが伝わってくる多くの発表を聞くことができた。

コモンズ活動事例報告

奈良県中小企業団体中央会との連携

奈良県中小企業団体中央会の企画になる「地域企業訪問交流会」へ学生を参加させました。初年次を含む学士教育課程前期におけるキャリア形成指導の重要性は文部科学省の指摘を待つまでもなく、本学にあってもその意義は認識されています。そこで、対象者を地域経済コモンズゼミ履修中の2年次生のみならず、当コモンズが提供するコモンズ共通科目である「経済地理学」履修の学生（1年次生）にも呼びかけ、参加者を募りました。その結果、1年次生6名、2年次生2名での参加となりました。

夏季休業中には、企業訪問による工場見学、代表者及び役員等からの業界に関する思いの聞き取り、それを踏まえての学生からの質疑応答を実施しました。その成果を取りまとめて中央会のご支援のもとで、デジタルコンテンツ化し、Web上でのアプローチやシンポジウムでの発表により幅広く公開することになっています。このことは学生の勉強にもなるし、企業の魅力発信のお手伝いにもなります。

平城ニュータウンにおける学外実習

当該ニュータウンにおける環境整備と公的サービスについて考えることをテーマとして、奈良市の「平城浄化センター」の下水道システムの訪問と歌姫近隣公園（奈良市）と音浄ヶ谷公園（京都府木津川市）を見学しました。前者は、近鉄京都線高の原駅に近接し、多くの学生が目の当たりにする施設ですが、見学する機会はありませんでした。ここでは、静脈系の都市インフラ整備の実態を「下水道システム」の見学によって観察し、公的セクターによる公共サービスの質的・量的内容とその存在意義について考える機会となりました。後者では、ニュータウン開発の際に発掘された古代瓦窯跡の遺跡を都市公園として保存・展示している状況を観察し、自治体間でその方法に特徴のあることがわかりました。

奈良県立美術館での企画展の鑑賞

当美術館は、県の所管であること、われわれの大学より徒歩で10分程度の距離にあり、身近な存在であります。さらに、展示会にあつては、展示内容に関連する市町村による連携展示も行われており、地域創造学部において学ぶ学生にとっては県内市町村の情報に身近にかつ具体性をもって提供される場でもあります。今回は「雪舟・世阿弥・珠光：中世の美と伝統の広がり」を鑑賞しました。学生諸君は禅宗、お茶、茶道の関連と奈良との関わりに興味を抱くきっかけになったと思います。また同時に連携展示の川西町、三宅町、田原本町への関心も高まりました。

学びのOneシーン



OUT IN JAPAN in NARA



レインボー・パレード（大阪）②



調査基礎演習・現地調査報告会 ②



調査基礎演習・現地調査報告会 ①

学びのOneシーン



経営者から会社経営方針を聞く



社長はじめ役員の方々と名刺交換



田原本、三宅、川西の3町の展示を見学



平城浄化センターの地下



イベント部署長 原 咲耶

51回秋華祭のメインステージは井上恵一さんのオープニングアクトで盛大に幕をあげました！我々イベント部署は前回は越える秋華祭をお届けするため企画内容を見直し、新鮮で活気に満ちたステージになるよう尽力しました。また、有志の方々のおかげで華のある舞台となりました！ご協力頂いた皆様へ感謝申し上げます。次回もぜひ期待しててください！！

第51回 秋華祭 『恋する秋華祭』

今年で51回を迎える
奈良県立大学学園祭『秋華祭』
今回はテーマを『恋する秋華祭』と
題して数々のイベントを
実施しました。



広報部署長 村田 季美果

広報部署では、秋華祭のパンフレットやポスター、会場内の装飾などを制作しています。第51回のテーマは「和風」ということで、古都奈良をイメージした装飾を目指しました。ひとつひとつ手作りされた、個性あふれる装飾は今回も好評を得ることができました！本当にありがとうございました！！これからも皆様により一層楽しんで頂きますよう、秋華祭を彩っていきたく思います。次回もご注目ください！！



今回の秋華祭は半世紀の折り返し、51回目ということで51にちなんだ恋がテーマでした！県大、奈良に恋はできましたか？秋華祭は、本当にたくさんの方の協力のおかげで開催することができました。来場者数は1000名を超えたくさんの方々に楽しんでいただけた秋華祭であればありがたいと思っています。次回はさらにお楽しみに！みなさま、ありがとうございました！



副委員長 中川 恵里花
実行委員長 大嶋 ひで香
副委員長 藤原 萌

秋華祭

平成28年11月6日

11月6日(日)秋晴れの中、奈良県立大学の学園祭である秋華祭が開催されました。学生たちが共同して創りあげる一大イベント、学生のほか、地域の方々の笑顔もあふれる時空間となりました。



模擬部署長 藤田 青美

今回は、たい焼きや餃子、シチューにあげそば等々、個性的な模擬店が並びました。どの模擬店もこだわりのあるものばかりで、第51回秋華祭がいつも賑やかに、華やかになりました。今回は天候にも恵まれ、多くの方々に楽しんでいただけたことと思います。盛り上げてくださった各模擬店の方々、また様々な形で協力していただいた皆様、本当にありがとうございました。次回の秋華祭もよりしくお願いします！



前夜祭



明日に向かってのフィナーレ



充実のフード



盛りあがる会場



前夜部署長 水野 名美子

前夜祭は学年を問わず多くの県大生が集まり多に盛り上がりました！ステージ企画では初の試みとして、模擬店と連動しポイントを賭けた模擬店対抗や、歌やダンスを披露する企画、その場で参加者を集める企画など、どの企画もとても盛り上がりました。ミスコン、ミスターコンでは出演者さんに黄色い歓声が上がるなど、会場もヒートアップ。来てくださったみなさん本当にありがとうございました。

- 19:00 燈華会
- 18:05 閉幕 (模擬店表彰 挨拶 etc.)
- 17:55 ミスコン & ミスターコン結果発表
- 17:10 FanStyle (ダンス部)
- 15:55 軽音
- 15:00 芸人ライブ
- 13:40 船橋商店街もつぎ
- 13:35 THE HAPPY FRIENDS (英語コーラス)
- 10:20 模擬店対抗
- 10:00 開幕 (井上恵一ゲストライブ)

秋華祭
タイムスケジュール

3公立大学連携シンポジウム

地域に根差す公立大学が有する知的資源を、互いの強み・得意分野として活かし、シナジー効果をうみだす「新たなモデル」となる共同教育プログラムを構想しています。

宮城大学・兵庫県立大学・奈良県立大学の3公立大学は、それぞれ異なる得意分野を有していますが、コアな分野は「地域」です。

「学びの幅を広げ、教育の質を向上するため」に求められることは何か。「具体的な連携内容の調整に向けて今年度2回のシンポジウムを開催しました。」



3大学長（12/17シンポジウムより）

3公立大学連携 キックオフ記念シンポジウム in 奈良県立大学



荒井正吾 奈良県知事

9月17日（土）、奈良県立大学地域交流棟中研修室にて、3公立大学の連携を記念したキックオフシンポジウムを開催しました。荒井正吾奈良県知事より開式のご挨拶を賜り、公立大学協会の中田事務局長、文部科学省高等教育局の君塚公立大学専



中田晃 公立大学協会事務局長

門官より基調講演を頂くなど、全国的に注目される新たな取組がスタートしました。

3大学長からはそれぞれ各大学における地域連携の現状とその発展性について講演を行い、本学学生による産学連携による取組発表を行ったほか、（公社）奈良市観光協会鷺見専務理事より「地域社会から求められる地域連携の公立大学とは何か」を学外の視点から講演いただきました。最後の「3大学長による鼎談」では今後の連携のあり方や可能性について、建設的な意見交換が行われました。



3大学長鼎談



学生による取組発表



文部科学省高等教育局 君塚剛 公立大学専門官

3公立大学連携シンポジウム in 宮城大学

12月17日（土）、宮城大学大和キャンパス講堂にて、2回目となるシンポジウムを開催しました。3公立大学の目指す「新たな教育モデル」とは何か。大学間交流



学生による取組発表



増本貴士 特任准教授



増上の発表、パネリストたち

協定等による共同教育プログラムの構築に向けた検討を行いました。冒頭に本学の伊藤学長による基調講演を行った後、3大学および宮城県多賀城高等学校の学生による発表をし、3大学長、増本特任准教授を加えたパネルディスカッションを行いました。最後には、宮城大学の西垣学長の挨拶の後、3大学長による「新たな教育モデル」の実現に向けた宣言文が採択され、今後の連携の発展について確認しました。

3公立大学連携については、今後もホームページなどを通して積極的に情報発信して参ります。

県大への留学生紹介

奈良県立大学では、昨年10月より、5名の留学生を迎えることができました。

海外の学術連携協定校である上海師範大学（中国）より半年間、汪海娟さん・耿文権さん・周亜焯さん、開南大学（台湾）より1年間、張宏謙さん・盧冠文さん。県大での留学で感じたことなど、彼らの声をお聞きしました。



大極殿にて

奈良公園で鹿と

日本語スピーチコンテスト会場より

留学生コメント

汪海娟

奈良に来たことが楽しいです。奈良は綺麗な都市だと思います。県大に留学できたことも嬉しいです。新しい友達できました。一緒に、京都や神戸、みんなの地元のおススメのところに遊びに行きました。すごく楽しかったです。先生もとても優しく、特に、田中先生、大和先生、国際交流室の長田さん、作田さん、とてもお世話になりました。私は日本語が得意ではないので、授業の時に「難しいな」と、よく思います。でも、クラスメイトや先生はすぐに助けてくれます。ありがとうございます。本当に感謝しています。県大では色々な活動があり、参加しています。とても面白く、また楽しく、より一層と日本文化を理解できるようになりました。



留学生コメント

盧冠文

9月、初めて親と離れての一人暮らしだったので、日本に留学してちゃんと生活できるか自信がなくて心配だったけど、自分の夢のため、交換留学生として奈良に来ました。今まで、色々なことにチャレンジをし、外国人留学生による日本語スピーチコンテストにも参加しました。鹿を見たり、東大寺初詣の参拝をするなどしていると、元々あった不安な気持ちも消えて、日本語の勉強だけでなく、日本の伝統、習慣など様々なことも学べて本当に良い勉強になっています。また、奈良県立大学の先生と学生は優しく、暖かい環境で勉強できています。色々と迷惑をかけたのに、留学生の私達を助けてくれ、仲良くしてくれ、本当にありがとうございます。



留学生コメント

耿文権

奈良は日本の古都であり、大阪と京都にも近い。また、鹿もいる。そんな理由で日本での留学先に奈良を決めました。奈良では東京や上海とは違い、ゆつくりと生活しています。週末は奈良公園に行き、鹿と一緒に散歩をして、仏像を参拝する心が静かになります。奈良時代には唐と日本の関係が密接であり、歴史愛好者としての私には当時の様子を残すお寺を拝観できるのもとても嬉しいですね。県立大学は小さい大学ですが、みんなが明るくて、また親切です。国際交流室の長田さんと作田さんはいつも熱心だし、私達の生活を手助けしてくださり本当にありがとうございます。クラスメイト達もいつも私達を色々なところに遊びに誘ってくれます。奈良県外国人支援センターでも様々なイベントがあり、留学生生活を楽しくしています。日本に来れば人情味満々！関西が最高！



留学生コメント

張宏謙

最初に奈良に来た時、すべてが新鮮でしたが、同時に戸惑いも感じました。けれども、先生、チューターや他の学生達、みんなが親切で留学生の私達に色々なことを教えてくれ、授業で分からないことがあったら、チューターは自分の学びを参考に話してくれます。また、チューターの誘いでソフトテニス部に参加しました。仲良くできるか不安でしたが、みんなが優しく接してくれるおかげで今では毎日楽しく県大に通っています。奈良には歴史のあるものがたくさんあります。私が行ったところは、まだ指で教える程度ですが、そのなかで奈良公園は行くたびに森に包まれるようで、とても落ち着きます。都市には都市の良さがあるが、奈良のようなところでゆつくりと過ごすのもある意味で幸せを感じる事ができます。



国際交流室より一言

今回来られた皆さんは、日本語も堪能で、社交的で日本文化にも興味を持ってくださいました。更に、日本の友人をつくって日本文化の活動に参加したり、県大での勉強にも真面目に取り組んでくださいました。国際交流室としても、皆さんが仲良く勉学に励んでいる姿を見ることは嬉しい限りです。どうかここで芽生えた友情を大切に、機会があれば遊びに来てくださいね。



Club activities

サッカー部



大学生が中心となり、OBや社会人の方と一緒に、練習(土曜日)や練習試合に取り組んでいます。夏期休暇になると毎年恒例の合宿を行い、学生メインの大会に参加しています。

今シーズンは社会人3部リーグを優勝という結果で終え、来シーズンからは社会人2部リーグへの昇格が決まりました。チームとしてさらに成長できるように今後の活動に取り組んでいきたいと考えています。

初心者・経験者問わず大歓迎です！マネージャーも募集しています！

サッカーが大好きで、大学でサッカーをしようか迷ってるそのあなた！僕たちと一緒にサッカー楽しみませんか？

食文化研究会



「口からものをおいしく食べる」ということは、人間が人間らしくあるための根源的な営み。私たちは料理研究家である辰巳芳子さんのこの言葉をモットーにしています。

「おいしい」は味の問題だけでなく、時間・場所・場面：様々な要素が複雑に絡み合うことで形成されると考えています。戦後日本を再建してきた先輩方のおかげで現在の日本は食べることには困らない。しかし、ものを「おいしく」食べることはできているでしょうか。そこで私たちは「食文化」を研究するのではなく「食」という文化のほんの一部を研究することで、私たちの生活がより豊かなものになればと考え活動しています。また、「おいしく食べる」とは何か？を考えながら食べています。

船橋水打ち大作戦



7月27日(水)、隣接する船橋通り商店街で行われた「船橋水打ち大作戦」に学生が参加、イベントを盛り上げました。

生駒市との包括的連携協定締結



8月5日(金)、本学と生駒市は包括的連携協定を締結、将来にわたる有益で継続的な取組を実施していきます。

黒滝村村長による特別講義

10月6日(木)、黒滝村の辻内幸二村長にお越しいただき、観光創造コンプレックス学生への特別講義を賜りました。



保護者説明会



11月6日(日)、保護者説明会を実施、就職状況などを中心に説明を行いました。なお、当日は秋華祭も開催されており、保護者の方々にも大学に親しんでいただきました。

情報収集のための特別ガイダンス



12月2日(金)、附属図書館では国立国会図書館関西館職員をお招きし、論文の作成に役立つ効果的な情報収集のための特別ガイダンスを実施いたしました。

ウィンターパーティー

12月13日(火)、生協学生委員会が主催し、ウィンターパーティーを開催。会場の3号館多目的ホールは今年最後の学生イベントに大いに賑わいました。



なら観光シンポジウム

12月14日(水)、奈良信用金庫と共催で「なら観光シンポジウム」を実施、奈良春日野国際フォーラムにて東京大学名誉教授である養老孟司氏をお招きし講演等を行いました。



テリビッド・アトキンソン客員教授による県民講座

12月8日(木)、小西美術工芸社の代表取締役社長であり本学客員教授であるデービッド・アトキンソン氏による県民講座を実施、多くの県民に聴講いただきました。



山田桂一郎客員教授による県民講座

1月27日(金)、JTIC、SWISSの代表であり本学客員教授である山田桂一郎氏による県民講座を実施、多くの県民に聴講いただきました。



教育研究支援基金 ご寄附のお願い



目的

奈良県立大学は、施設及び設備等の整備並びに学生支援等のための事業を実施することにより大学教育研究の質の向上を図り、優れた人材の養成を図るため、「公立大学法人奈良県立大学教育研究支援基金」を設置しました。

ぜひ、基金の趣旨にご理解とご賛同をいただき、ご支援をいただきますよう、心からお願い申し上げます。

使途

みなさまからいただきました寄附金は以下の事業に活用させていただきます。

- (1) 大学施設の小改修
- (2) 大学教育研究のための設備及び備品の購入
- (3) 記念事業の実施
- (4) その他

寄附金額

個人の方 1口**5,000円**(何口でもお申し込みいただけます)
*1口未満のご寄附もありがたく頂戴いたします(千円単位)

法人の方 1口の金額は特に定めておりません。

ご寄附をお願いする方

基金の趣旨にご賛同くださる方どなたでもご寄附いただけます。

ご寄附の顕彰等

- ◆ ご寄附をいただいた方々に対して感謝を伝えるため、氏名・会社名を奈良県立大学ホームページ及びキャンパスジャーナルに掲載します(掲載に同意いただいた方のみ)
- ◆ 基金を使用した場合は、その使途及び金額等を奈良県立大学ホームページで公表します。
- ◆ 基金のためにご提供いただいた個人情報は、寄附金収受事務及び寄附募集に関する業務のみに使用し、ご本人の同意を得ずに第三者に提供することはありません。

募集期限

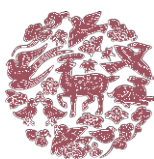
平成30年3月末まで

*募集期限で一区切りとしますが、期間終了後も継続してご寄附を受け付けさせていただきます。

寄附の申込み・お問い合わせは

奈良県立大学事務局総務課総務係(基金担当) TEL：0742-22-4978 FAX：0742-22-4991

ホームページのご案内 詳しくは大学ホームページにも掲載しております。 www.narapu.ac.jp



第32回国民文化祭・なら2017 第17回全国障害者芸術・文化祭なら大会 平成29年9月1日～11月30日開催!

奈良県では、「第32回国民文化祭・なら2017」・「第17回全国障害者芸術・文化祭なら大会」を全国で初めて一体開催します。
会期中は、さまざまな文化・芸術イベントが、県内各地で開かれます!

国内最大級の文化の祭典が、日本文化のはじまりの地・奈良で開催!



©NARA pref.